



生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

研究について

生命誌とは

投稿日：2019.04.06 ニックネーム：野菜畑のどんぐり

このところ、思考が少し深化している気がします。人間と人間の間を中心とする相互作用を人間社会と呼ぶとしたとき、この社会の概念でもって、過去を記したのを歴史と、私たちは呼んでいるのですね。ところが、人間は生きものであるにも関わらず、歴史には、人間以外の生きものがほとんど登場しない。これはおかしい。

歴史は、時間軸のものさしで計測して、江戸時代と称したりします。一方、時間軸のものさしは、虫や動物の歩みも、時間軸のものさしで計測できる。生命誌とは、歴史に相当する、人間社会の変化の在り様に、対置すべく、歴を生命に置き換え、史を誌におきかえた概念とも理解していいでしょうか？

もし、そういう理解でよいとすると、環境という概念を（定義付ける）ことがやりやすくなるように思います。環境は、時間軸上で折り重なって現存しているので、「改ざん」ができっこない前提に立てることになるはずですね。

お返事

投稿日：2019.05.07 名前：中村桂子館長

自然と向き合いながらじっくり考える生活、羨ましいです。確かに「歴史」となると人間以外の生きものは登場しませんね。それどころか歴史の教科書は、いわゆる「えらい人」のことばかりで、庶民とくに女性や子どもなどはほとんど登場しません。そこで「史」から「誌」ですべての生きものの物語にしたいと思いました。おっしゃる通りです。生命誌を始めてから、時の流れこそ大事で早く早くは無意味と実感しています。

中村桂子の「ちょっと一言」

自然の中のヒト

投稿日：2019.04.01 ニックネーム：mokukiti

お返事を頂き、有難うございます。
ヒトも自然の一部なので、他のすべての命と同じところに立って、自分も自然の一部なんだということを実感し、何も壊すことなくまあくおさまっているのが一番良いと思います。が、残念ながらそうではない部分もあるでしょう,,,
ヒトも自然の一部なのに、なぜ壊そうとするヒトが現れてくるのか、そうなるようになってそういうヒトが現れてくるというのなら、何のために？その先に答えがあるのか？ギモン、ギモン、ギモン???なのですが、まずはヒトという生きものの事、他のたくさんの生きものの事をもっと知ることが大切ですね。知識として、感覚として。
またオープンラボに参加して勉強したいと思います。
自然は繊細ではあるけれど寛容でもあるので、はじくという意地悪はしないでしよう。ヒトの側が入り込めて無いだけ、自覚が出来てないだけ。かな？

お返事



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

投稿日：2019.04.03 名前：中村桂子館長

おっしゃる通り、「残念ながらそうではない部分」がどんどん広がっているのが今なのではないでしょうか。それをあたりまえと思わず、？をもつことが大事ですよね。



中村桂子の「ちょっと一言」

この思いは、実は「怒り」だったかも

投稿日：2019.04.01 ニックネーム：まめ

私にも同じもんが・・・。「そんなに富を独占しなくっても・・・」「武器にそんなにお金つかわなくても、やりだすと際限ないじゃん。やめてくれ！」貧しい国や地域の子どもの教育や社会整備や産業の育成のために回せば、世界の紛争など激減するはずだ。そんな思いもアキラメ気分でしたが、明日からは「怒り」だ！・・・静かな、そして持続するように。

お返事

投稿日：2019.04.03 名前：中村桂子館長

本当に心の底から怒りがわいてくるでき事・・・たとえば公人が平気で嘘をつくなど・・・が多いですが、ここは静かに、持続してが大切だと思います。自然に向き合いながらそれを続けるのは、お天道様は見ていらっしゃると思うからです。

怒りは忘れず、でも持続的にを御一緒に。

[▲ ページの先頭へ](#)

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [プライバシー](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.